

サンプルビレッジ・いわさき（岐阜県郡上市）

—食品サンプルの創業者の故郷のアピール—

社団法人中部開発センター

企画事業部 折戸厚子

新しい観光のあり方“産業観光”が、中部圏において積極的に進められています。“産業観光”は、産業の内容を対象とする観光で、生活の中の商品・サービスが提供されるまでに、どのような歴史や技術があるのかを発見し、体験する知的好奇心にあふれた観光です。

具体的には、製造業の工場見学や、伝統産業の体験プログラム、企業博物館などがあげられます。こうした施設を訪ねる機会は、従来から社会見学や企業視察などがありましたが、特定の団体や目的に限らず、個人客や家族客などの一般観光客でも楽しめるよう門戸を広く開放していこうとするところに“産業観光”の特徴があります。

今回は、岐阜県郡上市の「サンプルビレッジ・いわさき」を紹介します。



食品サンプル第1号「記念オム」

知られていなかった地元の産業「食品サンプル」

日本三大盆祭りの一つ、「郡上おどり」で有名な郡上市は、最近、「食品サンプルの創業者の故郷」としての顔も知られるようになってきました。

レストランのショーケースなどに見られる、食べ物そっくりの食品サンプルは、日本独自の文化で、郡上市出身の（故）岩崎瀧三氏によって、今から75年ほど前に初めて事業化されました。

現在、全国の食品サンプルの5割以上を郡上市

を含むいわさきグループで生産していますが、こうした事実は、ごく最近までは、地域の人々にもそれほど知られていませんでした。それを変えるきっかけとなったのは、株式会社岩崎模型が、一般に向けた食品サンプルづくりの体験施設をオープンしたことです。

思わず食べてしまいそうな本物そっくりの食品サンプルを自分でも作れるユニークな体験は、口コミでひろまっていき、テレビや雑誌などマスコミにも取り上げられ、今では台湾からの観光コースにも加えられるなど、年々、観光客が増えてい

ます。

サンプルビレッジ・いわさきの開設

現在、食品サンプル業界トップのいわさきグループは、(株)大阪いわさき本社、(株)東京岩崎本社、それから郡上市にある岩崎模型製造(株)の三社を柱に構成されています。

瀧三氏の故郷である郡上で、食品サンプルについて知ってもらおうと1992年に食品サンプルづくり体験を開始、3年前には岩崎模型製造に隣接して、「サンプルビレッジ・いわさき」が開設されました。

ロウを使った食品サンプルづくりの体験コーナー、全国から集めた岩崎グループの食品サンプルの展示コーナー、実際に使われている食品サンプルやグッズをお値打ちに買うことができる販売コーナーがあり、本物そっくりのできばえに、大人から子供まで、驚きながら楽しめる施設になっています。

美味しそうな展示コーナー

全国から集めたいわさきグループの食品サンプルが約2,000点展示されています。通常のレストランのショーケースで用いられているものの他、伝統的な和菓子のすべての形を後世に伝えたいという愛知県一宮市和菓子組合の依頼で作られた和菓子の見本コレクションや、実物大のシーラカンスの模型などもあります。

歴史資料として、岩崎瀧三氏の資料とともに、



一宮市に伝わる和菓子の見本コレクションの一部

記念すべき食品サンプル第1号となったオムレツのサンプルが展示されています。

また、本物の食品から型を取り、そっくりになっていく過程など、大変興味深い、サンプル作りの工程・材料などが展示されています。

食品売場にいるような売店では、遊び心あふれる食品サンプルのキーホルダーや、実際に使われている食品サンプルなどが市価よりかなりお値打ちに買うことができ、人気のお土産になっています。

サンプルづくりを体験

体験コーナーは1,000円の別料金で、天ぷらとレタスのサンプル、水にうかぶキャンドルの作成がセットになっています。

手本を見せてもらった後、工房のスタッフの方にサポートをしてもらいながら、サンプルづくり



サンプルづくりの行程を紹介



実際に使われている本物そっくりな食品サンプルを販売

に挑戦します。

天ぷらでは、すでに製品として作ってある海老・サツマイモ・かぼちゃ・ピーマンなどから好きな具材を選び、衣をつけます。ぬるい湯に衣となるロウを落とし、具材に巻きつけて、ひっくり返すと、ふっくらとした衣につつまれた天ぷらとなります。

レタス作りは、透明なロウと緑のロウをお湯の上にたらし、お湯の中にひっぱり込んで広げます。手の上で丸めて形を整え、包丁で切ればできあがりです。

こうして不思議で面白い食品サンプルづくりの技の一端を体験できます。

その他にもスパゲティ、カキ氷、パフェ、ザルソバなど、個人客のための別メニューも用意されています。



ロウの膜がレタスへ

アクセスに便利、団体客も対応可能

バスも停められる駐車場があり、郡上八幡 I C から 1 分ほどの距離のため、名古屋から高山への観光客が、立ち寄るにも都合がよく、子供を連れた家族客や団体客が増えています。

一度に 30～40 名ほどの対応が可能です。が、込み合っている日を避けるため、サンプルづくりの体験をする場合は個人客も予約が必要になっています。

施設の概要

住 所 岐阜県郡上市八幡町城南町 250

電話番号 0575-65-2832

U R L <http://www4.ocn.ne.jp/~iwamo/>

開館時間 10:00～16:00

(体験は 15:00 まで)

定休日 不定休のため前もって確認必要

入場料 一般 大人 350 円、小中学生 300 円

団体 大人 300 円、小中学生 250 円

(キーホルダーのお土産付き)

体験料金

○A セット (個人客向け)

天ぷら 3 品・レタス 1 個・キャンドル 2 個

料金 一律一人 1,000 円

○B セット (団体客向け)

天ぷら 1 品・レタス 1 個・キャンドル 1 個

料金 一律一人 700 円

※体験は事前の予約が必要となります。



レタス、天ぷら、ろうそくのできあがり

インタビュー



株式会社岩崎模型製造
代表取締役社長 佐藤一作氏

ロウを使った食品サンプルづくりが原点

— サンプルビレッジ・いわさきを始めた経緯についてお聞かせください。

ふだんはウインドウケースで見だけの食品サンプルを実際に作ってもらおうと思いつき、14年ほど前から、出張体験教室などを行ったり、工場の中に体験室を作ったりしていたのですが、2005年、本格的に、展示棟と体験場をつくってリニューアルオープンしました。

たまたま、私は創業者の岩崎瀧三氏と2年間ほど一緒に働かせて頂いた思いもあり、岩崎グループのオーナーである親族の方の意向もあって、故郷である郡上市に氏の業績を伝える施設を作らなかったのです。

ロウは直射日光に弱いので、現在の食品サンプルのほとんどは、合成樹脂に替わっていますが、体験教室では、素人の方にも扱いやすいことや、瀧三氏の原点を知ってもらう意味で、ロウを使った食品サンプルづくり体験となっています。

— 主な入場者についてお聞かせください。

町の中心部からは離れた工場の横にありますから、個人客が、郡上市内の観光のついでに立ち寄るには若干、距離があります。

一方、東海北陸自動車道の郡上ICから1分ほ

どの距離と、高速を降りて立ち寄るのにはちょうどよく、バスで来られる団体客が多いです。駐車場が広いので、バスや車をここに駐車しておいて、郡上を散策して帰るというパターンもあります。

一番多いのは、名古屋を中心とした中部圏からのお客様で、次に大阪や京都などの関西圏、個人のお客様では遠く北海道からいらっしゃる方もいて、台湾からの団体客も増えています。

以前は年に3～4,000人ほどだったのですが、年々、順調にお客様が増えていき、改装後の昨年は7,000人、昨年は1万3,000人になりました。今年は9月までにすでに1万5,000人を越えていますから、最終的にかなりの伸びになると思います。

万博をきっかけに台湾からの観光客が増加

— 台湾からの観光客が来るにはどういうきっかけがあったのでしょうか？

台湾のお客様が多いのは、団体ツアーが組まれているためです。中部国際空港から日本に入り、高山や世界遺産白川郷に行く途中に、郡上市内の散策やここに立ち寄るというコースが増えています。万博で、台湾の旅行エージェン트가この辺りの観光のことを知ることになった影響が大きいです。

— 海外からの観光客に対して、なにか特別な対応をしているのでしょうか？

基本的には海外からの団体客の場合、通訳の方と一緒に見えになりますので、それほど大きな問題は今のところありませんが、今後はどうなるかわかりません。残念なことに英語対応は出来ないのですが、最近では中国、台湾からの観光客が増え、対応策として、中国から郡上市へお嫁に来ている方にお手伝いをお願いする事も増えて参りました。

「元祖でぶや」から次々テレビに取りあげられるように

―サンプルビレッジ・いわさきの広報についてお聞かせください。

郡上に当社ができてから、50年以上たちますが、この郡上で日本全国へ発送する食品サンプルを製造している事を知っている地域の方は多くはいませんでした。

また、当社は同じイワサキグループからの注文を受けて、製造するという業務を行っており、従来、営業活動はほとんど必要がなく、宣伝は苦手な分野です。

当初、役所や観光協会にちらしを置いてもらったくらいで、バス会社や観光会社に営業訪問を行うのが本当ですが、今のところそれは出来ていない状況です。知られるようになったのは、テレビに取りあげられるようになったことが、一番、影響が大きかったと思います。

―テレビ放映をされるようになったきっかけは？

一番最初は、「元祖でぶや」というバラエティ番組で取りあげられて、その後はA社がくれば、B社が来るという具合に、次々と取りあげられるようになりました。去年だけで6社がやってきました。最近では、「TVチャンピオン」で食品サンプル職人選手権が取りあげられるようになるなど、特にこちらから働きかけるわけではないのですが、関心を持ってもらえるようです。

日本全国で、食品サンプルを常設で体験できるのはここだけなので、物珍しさがあり、また、こうした技術というのは、今まで隠されてきたものなので、それを実際に自分で作れるというのが魅力のようです。

―サンプルビレッジ・いわさきの運営で、利益は出ているのでしょうか？

今のところ赤字にはなっておりません。この体験で儲ければよろしいのですが、一番大切なことは、皆さんに体験に来て頂きお客様が楽しんで頂

ける事が出来ればと思っております。

お客様への対応には、社員が2人、あとはアルバイトで対応しています。土曜・日曜は会社は休みですが、依頼があれば社員が交代で開けています。

―営業的にプラスになったことはありますか？

全国に食品サンプルのいわさきの存在を知ってもらえたということがあると思います。今まで、どこで食品サンプルの製造を頼めば良かったのかわからずにいた方から問い合わせが来るようになり、所在地に合わせたいわさきグループの営業所を紹介しています。それほど多くはありませんが、営業所の営業では拾えていなかったコネというか、ネットワークができたと思います。

岐阜県、郡上市の新しい個性に

―地域における役割、貢献について、どのようにお考えですか？

それまでは、会社と観光はまったく関係がなかったのですが、体験を始めるようになったここ10年ほどで、郡上市の観光協会のメンバーに選出されるなど、協力を求められるようになりました。人口4万人ほどの市で、大きな会社はありませんから、当社のような中小企業でも頼りにされることになります。

また、県や郡上市が、食品サンプルをこの地域独自の特産品として、宣伝するのに力を入れているので、なるべく協力するようにしています。

郡上市は、郡上踊りのある夏期以外にも、通年で観光客を呼ぼうとしています。特に目立った名所・旧跡があるわけではなく、かろうじてPRできるのは水の綺麗な「名水の里」くらいでした。それに「食品サンプルの故郷・町」という新しいキャッチフレーズができつつあります。

また、高速道路ができて以降、郡上踊りに参加する人は増えたのですが、交通が便利になった分、泊まり客が少なくなり、地元にお金が落ちなくなったと言われています。少しでも滞在時間を伸

ばすため、郡上踊りが始まるまで、昼の間は、蕎麦打ち体験や、ソーセージづくりなどの観光をしてもらうように推進していたのですが、それに食品サンプルづくりの体験が加わったようです。もの珍しさもあり、特にこの2-3年で、昼は食品サンプル作り体験、夜は郡上踊りというお客様が増えています。

県にしても、高山市は知っていても、岐阜県がどのような県かは知らないという人も多いので、郡上市にこうした個性が加わるのは歓迎のようです。

県の観光事務所や、観光キャンペーンなどで、例えば、鵜飼いの宣伝をするにあたって、鮎のサンプルを貸してほしい、岐阜の名産品のサンプルを貸してほしいなどの依頼があれば、なんでも無料でお貸しできるようにしてします。

—今後の抱負や方向性等、課題等についてお聞かせください。

今は、来ていただいたお客様に対応しているだけで、まだまだ観光としては未熟だと思います。

団体客にはレタスと天ぷらのメニューしか用意していませんが、今後、観光事業として考えていくとなると、いつまでも同じというわけにはいきません。テレビを見て、お客様が来てくれているうちはいいですが、変化がなければ飽きられてしまいます。もっと体験できる分野を広げていかなければと思っています。

それから、お客様に上手に指導できる人材も育てていかないとはいけません。プロの私達は簡単に作ってしまうのですが、やはり一般の方が作るのには時間がかかるし、同じグループで上手な人と、下手な人と差ができないように、指導できなくてはいけません。

職人は、自分でコツコツと1人で作るのは得意なのですが、お客様を相手にするというのは苦手です。しかし、ある程度、経験を積んだ職人でなければ教えることもできないので、両方をバランスよく兼ね備えた人材の育成はこれからの大きい課題かなと思っています。



食品サンプルづくりの体験の様子



株式会社岩崎模型製造にある岩崎瀧三氏の像